

令和7年度 第3回学校運営協議会【報告】

1 日 時 令和8年3月17日（火）午前10時から午前11時30分まで

2 場 所 藍住中学校 校長室

3 議 事

○あいさつ（会長・学校長）

○学校教育診断票（生徒・保護者・教職員）の結果から

○質疑応答

4 出席者

- ・学校運営協議会委員3名
- ・学校運営協議会アドバイザー2名
- ・藍住中学校管理職3名

計8名

5 協議内容

(1)「学校教育診断票（生徒・保護者・教職員）の結果から」について説明

(2)質疑応答

A：保護者データの変容について、小学校では児童の反応が即保護者の評価と結びつく。中学校では生徒の評価と保護者の評価には差ができる。学校は、「義務」と「禁止」の集団であるが、その中に「楽しい」を意図的につくるのが重要。

保護者データの向上は、生徒の家での話が前向きになってきていることの表れであり、大切なのは生徒のマインドである。

キャリアパスポートによる目標設定については、目標だけで終わるのではなく、行動に落とし込む必要がある。高等学校でいうと、進学校の生徒も学び方を知らない。学び方ワークショップを行う高校がある。学び方が下手な子は最初から1つずつ押さえていくのに対し、上手な生徒は全体で押さえていこうとする。学び方を知ることは「自信」につながっていく。

「あいさつ」ができない生徒については、自己不信が他者不信につながっている。

B：表面的な数値への理解の仕方は、質問の捉え方による部分が多い。例として、「学校へ行くのが楽しい」という質問だと、どの要素がこれをつくっているのかその関連を明らかにしておくことが大切。全体を見ながら個人を押さえていくということが必要。

A：キャリアパスポートによる目標設定は、することの価値を語る事が重要である。するならカリキュラムに入れること。

自己対話の時間をもつようにすることが重要であり、必要。

「総合（探究）」は本当に重要。人生は大学に入って終わりではなく、大学を出てからが本番。探求ができるようにストーリーをつくり、3年間のカリキュラムに落とし込んでいく必要がある。

- C：社会の中での「あいさつ」について、細分化してアンケートを採ってみてもよいのでは。家族の中での朝夕のあいさつ、友達とは、先生とは、地域の人とは。
- D：児童館などでの地域ボランティアの後に参加者からアンケートを採っている。「やってよかった」「今後も続けたい」「自分たちがやっていたらいい」「自分たちがやっていたらいい」など、積極的な反応が返ってきている。
- 空中庭園（東校舎2.3階ベランダ）でのお年寄りの作業中に生徒からの声かけが最近少なくなっているのが残念。長期休みの空中庭園への水やりは生徒会の美化委員会を活用できないものか？
- A：不登校生徒について、居場所と役割を与えることが必要。例えば、マルシェへのボランティアや出店について、町適応指導教室を利用している生徒へ呼びかけてみるとか。
- E：高等学校のオープンキャンパスについて、2年生からでも参加できるといい。早いうちから進路へ向けての視野が広がり、勉強に早めに本気になる生徒が少しでも増えるのではないか。
- F：普通科高校学区制撤廃に向けて提案してみる。
- B：2年生の中だるみのアンケート結果について、項目間の影響もあるのでは。とにかく先生方の健康状態が心配。
- A：部活動の地域展開について、決め事としてやめるための方法を模索する必要がある。